



12 環境配慮への県の率直的取組

神奈川県では、平成12年度に、国際規格である「ISO14001」に基づいた環境マネジメントシステムの運用を県機関の一部で開始しました。その後、システムの対象範囲を拡大し、平成19年度には警察も含めるなど、現在ではすべての県機関を対象とした環境マネジメントシステムの運用を行っています。

知事が定めた環境方針に基づき、目的・目標を定め、これらを達成するため、行動計画「環境マネジメントプログラム」を作成しており、このプログラムをもとに、日常活動や業務を環境に配慮しながら進め、その進捗状況を定期的に点検し、見直しています。

この仕組み（PDCAサイクル）に基づき毎年取組を進めることにより、継続的に日常活動や業務が改善され、環境に配慮した活動になっていきます。

なお、平成28年度よりISO14001に基づかない県独自の環境マネジメントシステムへ移行しています。

ここでは、平成27年度における各プログラムの取組状況（進捗状況）を報告します。

1 グリーン購入の拡大と廃棄物の削減に向けた率直的取組

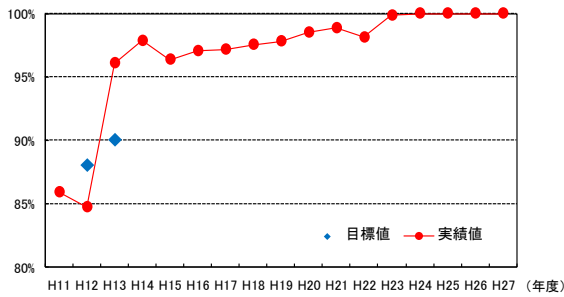
このプログラムは、物品を購入して、事務事業活動を行い、廃棄物を排出するという一連の流れの中で環境配慮を行い、グリーン購入、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を進めています。

▲表2-12-1 平成27年度目標と実績

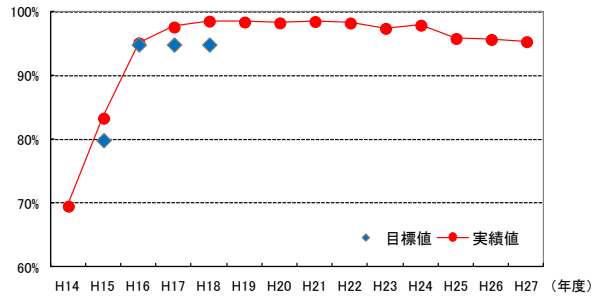
取組項目	目標	実績
本庁の経常物品のグリーン購入率の向上	☆	100.0%
出先機関等のグリーン購入率の向上	☆	95.5%
警察のグリーン購入率の向上	☆	98.6%
本庁の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	91.2%
出先機関等の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	94.4%
警察の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	(対象なし)
本庁の廃棄物発生量の削減（廃棄物発生量を把握）	☆	585t
本庁のリサイクル率の向上	☆	91.3%
出先機関等の廃棄物発生量の削減（廃棄物発生量を把握）	☆	4,157t
出先機関等のリサイクル率の向上	59.0%以上	57.3%
警察の廃棄物発生量の削減（廃棄物発生量を把握）	1,450t 以下	1,423t
警察のリサイクル率の向上	55.0%以上	56.6%
本庁のコピー用紙使用量の削減（使用量を把握）	4,900 万枚	6,090 万枚
出先機関等のコピー用紙使用量の削減（使用量を把握）	☆	24,962 万枚
警察のコピー用紙使用量の削減（使用量を把握）	☆	11,783 万枚

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

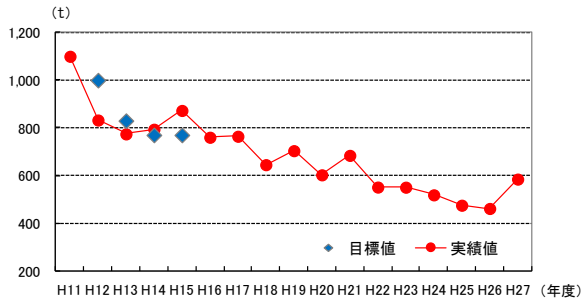
▲図2-12-1 本庁の経常物品のグリーン購入率の推移



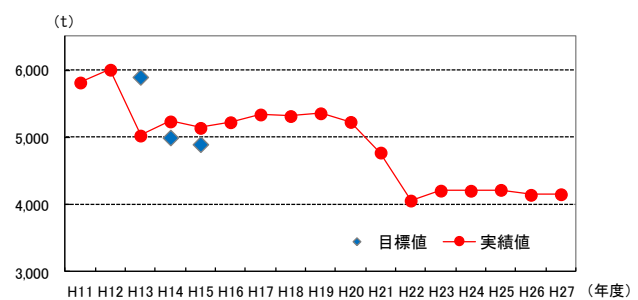
▲図2-12-2 出先機関等のグリーン購入率の推移



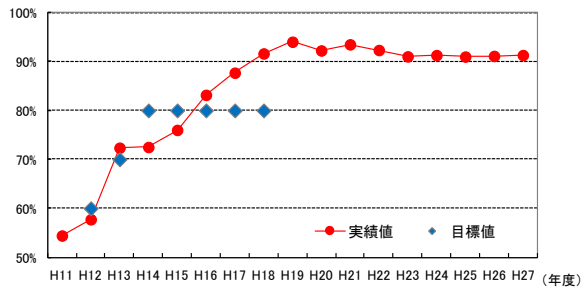
▲図2-12-3 本庁の廃棄物発生量の推移



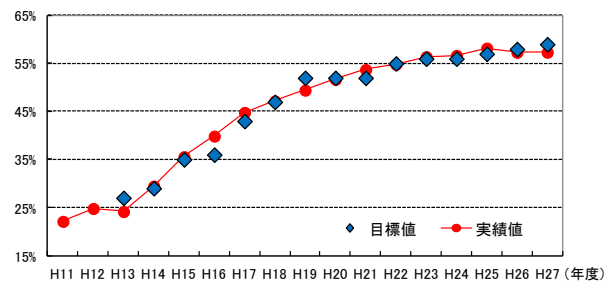
▲図2-12-4 出先機関等の廃棄物発生量の推移



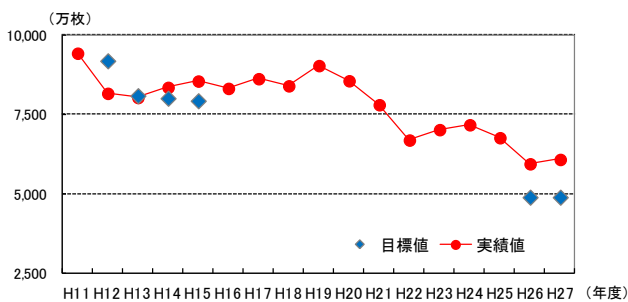
▲図2-12-5 本庁のリサイクル率の推移



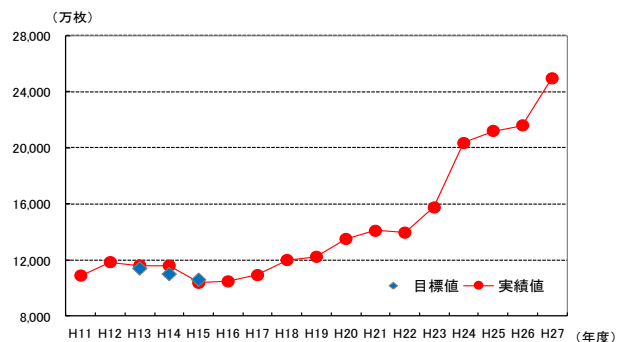
▲図2-12-6 出先機関等のリサイクル率の推移



▲図2-12-7 本庁のコピー用紙使用量の推移



▲図2-12-8 出先機関等のコピー用紙使用量の推移※



※平成 23 年度まで一部の所属において授業等で使用した更紙(ざらし)の枚数を含めず集計していたところを、平成 24 年度から更紙の枚数も含めて集計することに統一したため、平成 24 年度実績から増加した。

2 地球温暖化防止に向けた率優先的取組

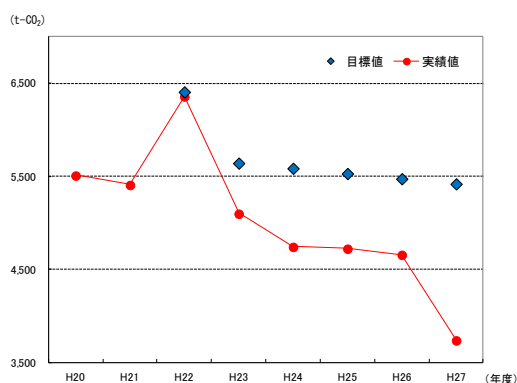
このプログラムは、温室効果ガス総排出量に大きく関与する各庁舎のエネルギー使用量の削減、浄水場のエネルギー使用量の削減、道路照明への省エネルギー型照明の導入などを進めています。

▲表2-12-2 平成27年度目標と実績

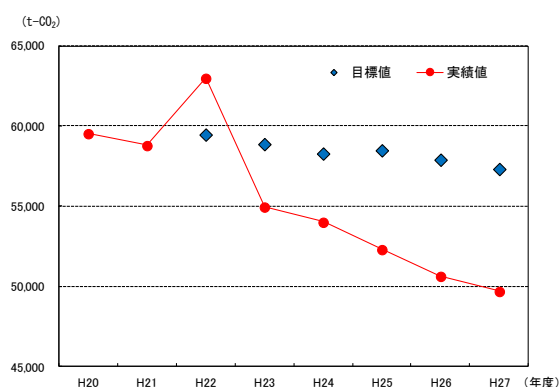
取組項目	目標	実績
本庁の温室効果ガス排出量の削減	5,423t	3,740t
出先機関等の庁舎の温室効果ガス排出量の削減	57,335t	49,696t
寒川浄水場 送水量当たりの温室効果ガス排出量の削減	129t/百万m ³	126t/百万m ³
谷ヶ原浄水場 送水量当たりの温室効果ガス排出量の削減	126t/百万m ³	117t/百万m ³
道路照明1本当たりの温室効果ガス排出量の削減	358kg/年・本	341kg/年・本
警察の庁舎の温室効果ガス排出量の削減	☆	24,709t
信号機のLED化の推進	39.1%以上	40.0%

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

▲図2-12-9 本庁の温室効果ガス排出量の推移



▲図2-12-10 出先機関等の庁舎の温室効果ガス排出量の推移



3 環境配慮型、環境創造型公共工事の推進プログラム

このプログラムは、公共工事の構想・計画段階、実施設計・積算段階、発注段階、工事段階、検査段階の各段階における環境配慮を進めるため、仕様書や現場説明書における環境配慮項目の拡大、工事の各段階におけるチェックリストの作成や見直し等を行い、環境配慮型、環境創造型工事を進めています。

また、グリーン資材調達の推進やリサイクル率の向上に努めており、主要な資材等については目標を定め実績把握を行っています。

▲表2-12-3 平成27年度目標と実績

取組項目	目標	実績
再生砕石の利用率の向上	☆	87.5%
再生アスファルト合材の利用率の向上	☆	63.9%
コンクリート塊のリサイクル率の向上	☆	99.6%
アスファルト・コンクリート塊のリサイクル率の向上	☆	99.5%
建設発生木材のリサイクル率の向上	☆	93.0%

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

4 環境基本計画

神奈川県の実環境分野における基本的な計画である環境基本計画に位置づけているプロジェクトを進めています。また、これらの進捗状況について、環境審議会や県民による点検に加え、内部監査による点検などを実施し、より効果的に進めています。

5 環境に視点をおいた本来業務の改善プログラム

このプログラムは、環境に視点をおいた本来業務の改善に向けて、各局一つ以上のプログラムを作成し、実施しています。各局における進捗状況は次のとおりです。

▲表2-12-4 平成27年度各局における本来業務の改善による環境負荷低減プログラムの進捗状況

局名	本来業務の改善による環境負荷低減プログラム	進捗状況
政策局	不祥事防止に係る周知・徹底	○
総務局	○総務室長会議におけるタブレット型端末の使用の徹底 ○不祥事防止に向け、所属長は日頃から報告、相談しやすい職場づくりに努める。 ○ミスは必ず起こりうるものであり、ミスが起こった場合は、職員は速やかに報告し、組織により対応することにより、少しでも影響を小さなものに止める。	○
安全防災局	局内（本庁）のコピー用紙使用量を平成24年度比で3割削減	× 是正措置実施済
県民局	不要な照明の消灯	○
環境農政局	紙の使用量の削減に向けたグループウェア（電子決裁機能等）やタブレット等の活用	× 是正措置実施済
保健福祉局	不要な照明の消灯	○
産業労働局	事故・不祥事防止研修、現場訪問の実施	○
県土整備局	各公共工事等の事業では、計画・設定・積算・監督検査で、より省エネルギーとなる活動をこれまで同様継続する。	○
会計局	○所属サーバを利用したファイル共有やグループウェア機能の積極的活用によりコピー用紙の削減を図る。 ○不祥事ゼロに向けた取組を実施し、不必要な電気機器類の使用やコピー用紙の使用がないようにする。	○
ヘルスケア・ニューフロンティア推進局	打ち合わせにおいては、データ化出来ないもの等は除き、資料は共通利用タブレットを使って配布・閲覧する。	○
企業庁	コピー用紙使用量の削減に向けた、スケジュール管理、電子決裁等グループウェアの各種機能の徹底利用	○
議会局	ペーパーレスの推進	× 是正措置実施済
教育委員会	節電・省エネ対策の推進	○
人事委員会事務局	職員採用試験電子申告システムによる申し込みの推進により、事務の効率化と環境負荷の低減を図る	○
監査事務局	所属サーバ及びグループウェアの利用促進	○
労働委員会事務局	電子決裁機能及び労働委員会事務局掲示板・ファイル管理機能の活用 両面コピー・裏面利用の徹底	○
横須賀三浦地域県政総合センター	○各部独自のノー残業デーを週1日設定し、残業ゼロをめざす。 ○近場の利用の際はガソリン車より電気自動車を優先し、またソーラーパネルからの充電により、エネルギー使用量の削減をめざす。	○
県央地域県政総合センター	節電の取組み、不祥事防止職場研修の実施	○
湘南地域県政総合センター	環境配慮型・環境創造型工事の推進	○
県西地域県政総合センター	不祥事ゼロ、残業ゼロの徹底	○
神奈川県警察	庁舎の適正な維持管理	○



「神奈川のISO(環境マネジメントシステム)」

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f246/>